

# メルボルン大学 アジア言語社会学科・日本語クラス 見学報告

小暮良幸・大塚武司・中野真規子

## 1 メルボルン大学日本語研究科について

メルボルン大学日本語研究科は、メルボルン大学アジア言語社会研究科 (MIALS = Melbourne Institute of Asian Languages and Societies URL:<http://www.asian.unimelb.edu.au/>) に属し、日本語教育に従事するとともに、文化・歴史・政治など、日本に関する様々な授業も開講している。

## 2 見学概要

表1 参照。

## 3 メルボルン大学における日本語授業の現状\*<sup>1</sup>

### 3.1 クラス編成について

以前は1~6レベルになっていたものを、昨年度から1・2 (旧1~3) と Advanced に相当する4, 言語言語文法面だけでなく、技能, 専門に対応する5・6レベルに再編成した。これは上級に進む学生が学問的な興味をもち、大学院進学や研究への可能性を持たせるためである。

初級レベルに関してはレベル1・2 (週9時間) の semi-intensive 集中講義を受講する形になっている。

### 3.2 講師陣について

現在, 常勤9.5人。専門は日本語教育だけではなく, 日本建築, 人類学 (ポップカルチャー, 社会問題) 歴史, 美術史などを専門とする教員もいる。

---

\*<sup>1</sup> 久保田満里子先生によるお話

表1 見学概要

日時	見学内容・担当教員	見学者
3月15日(月)		
10:00-10:45	打ち合わせ - 久保田満里子	早川直子・柴田佳夏・朴有眞・伊藤静・中野真規子・Chia I Liu・本柳とみ子
11:00-12:00	1. Colloquial Japanese - 久保田満里子 2. Japanese 1A - Carolyn Stevens	早川直子・柴田佳夏・朴有眞・伊藤静 中野真規子・Chia I Liu・本柳とみ子
13:10-14:00	3. Lecture : Prof. Joe Lo Bianco “A medieval view of language and national identity”	早川直子・柴田佳夏・朴有眞・伊藤静・中野真規子・Chia I Liu・本柳とみ子
14:15-16:15	4. Japanese through Translation - 久保田満里子	(前半) 早川直子・柴田佳夏・朴有眞・伊藤静 (後半) 柴田佳夏・中野真規子・Chia I Liu
	5. Japanese 2A - 渡辺鉄太	(前半) 中野真規子・Chia I Liu (後半) 早川直子・朴有眞・伊藤静
3月16日(火)		
10:00-12:00	6. Colloquial Japanese - 久保田満里子	早川直子・小暮良幸・中野真規子
12:00-13:00	7. Advanced Japanese Grammar - 豊田悦子	早川直子・小暮良幸・中野真規子
13:15-14:15	8. Advanced Japanese A 大橋純	早川直子・小暮良幸・中野真規子
14:15-15:15	9. Advanced Japanese 豊田悦子	早川直子・小暮良幸・中野真規子
3月17日(水)		
11:00-13:00	10. Japanese 2A 野口幸子	小暮良幸・朴有眞・柴田佳夏・大塚武司・林逸菁
14:00-15:00	11. 学生によるキャンパス案内	小暮良幸・朴有眞・柴田佳夏・大塚武司・林逸菁
3月18日(木)		
10:00-11:00	12. Advanced Japanese Grammar - 豊田悦子	吉田裕子・大塚武司
11:00-12:00	13. Japanese 1A 関口幸代	吉田裕子・大塚武司
13:15-14:15	14. Reading Contemporary Japanese Texts - 豊田悦子	吉田裕子・大塚武司
14:15-16:00	15. 豊田先生のお手伝い	吉田裕子・大塚武司

### 3.3 学生について

現在は、日本のポップカルチャーに興味を持って受講する学生が多い。初級の80%は中国系の学生。

## 4 授業見学報告

### 4.1 Colloquial Japanese - 久保田満里子先生

#### 4.1.1 授業内容

- Verbal Communication と Non Verbal Communication についての解説 (OHP)
- 日本人の用いる Body Language についての解説 (OHP と実演)
- その他の感情表現・しぐさ・信仰・俗信などについて解説

#### 4.1.2 見学の感想

学期の初めに独自の教材が学生個人に配布されており、当日の授業項目については OHP で映し出し、それを基に解説を進めていた。各々の所作を先生や見学者の実演を交えながら紹介するため、学生は意味を推測しながら楽しんでいただけたようだ。実際にこのような所作を使用するとなると、自分と相手の関係などを考慮しなければ、場面から浮いてしまう可能性もあるため、1時間という限られた時間では習得困難な点もあると感じた。参考文献・Web なども示されており、学生の興味次第で知識を深めることもできるだろう。しかし、外国で日本語教育に携わることの責任の重さを感じた。

### 4.2 Japanese 1A - Carolyn Stevens 先生

#### 4.2.1 授業内容

1. コースの学習目標、予定確認
2. 「漢字」について導入説明
3. "the copula" 「です」(～は～です) 3) 所有の助詞「の」

#### 4.2.2 授業形態

パワーポイント使用の講義形式。英語による講義。120名程度収容の大教室で実施。

#### 4.2.3 見学の感想

学習する言語の基礎知識を自分の理解できる母語や、第二言語で知っておく事は、学習者の理解促進だけでなく、安心感にも繋がるのではないかと感じた。文法の提示ではあるが、担当講師が意

識的に自然な日本語の言い回し、イントネーションなどを紹介しようとしている姿勢が伝わってくる講義だった。大教室なのでインターアクションはとりづらいが、それでも講義に関する質問が出るなど学生が熱心に授業を聞いている様子が見られた。遅刻の多さが少々目立った。

### 4.3 Lecture: Professor Joe Lo Bianco “A medieval view of language and national identity”

#### 4.3.1 講義内容

##### ■ 「言葉（言語）」の定義

- 文学的な理論で表現された政治的な理論
- 活字における知識能力と資本主義
- Nation（国・民族）を語る手段
- 外集団の構成を語る手段
- 人間の霊（人間の精神・心を表現する究極の方法）

##### ■ 「nation」と「state」の違いについて 「nationality」の定義の解説。（例、マレーシア）

Fisherman(1972): 「言語は民族集団をより強固な形態、確実なもの、統一性を持ったもの、効率的なものにする働きを持っている。」

■ 言語計画の遂行について 社会言語学、言語の本質や起源・サインのシステム、多言語主義、言語の進化や変化、方言論、方言学研究、言語による政治の分析と言語の命名。

■ まとめ — 言葉の意味・定義 Dante: “National Languages are basis of National State.”（「国語とは、国家の基準・基礎である。」）

1. ILLUSTRE（高名な・威厳のある・著名な）
2. CARDINALE（規範の指導）
3. AULICO（喜び・詩的な）
4. CAUIALE（礼儀正しい・公務の）

#### 4.3.2 見学の感想

「言葉」というのは一人一人の人間が自己表現する手段の一つであり、言葉を磨けば、磨くほど「自分」を引き出すことができると言えると思う。本講義のように、国のレベルから「言葉」の定義や代表的な意味を考えたのが初めてで、人間は言葉を通して個人レベルのコミュニケーションを行っているが、民族や国のレベルで考えると、言葉というのは一つの国を代表する象徴でもあるという教授の指摘は大変興味深いトピックだった。「自分」を表現する時にも、「自分の国」に誇りを持って語るときにも、言葉というのは、他人を傷つけたり、誤解を起こしたりする可能性もあることを考えると、使用時は注意が必要だと感じた。

## 4.4 Japanese through translation — 久保田満里子先生

### 4.4.1 授業内容

メルボルン大オリジナルテキスト使用。持ち家購入のメリットについての新聞記事の要約作業。

### 4.4.2 見学の感想

院生が学生の中に混じって、要約作業での質問などに答えた。学生によって、語彙力に差があるようで、漢語の語彙の理解に苦勞して文脈を捉えるところまでなかなかたどりつけない学生もいた。一方、語彙力のある生徒は段落の要点を捉えた場合、それをどうやって簡潔に表現するか考えていた。記事の内容把握は、社会常識を要求されるものになっていたが、これらの社会背景の文化比較等までできるとおもしろいのではないかと思った。

## 4.5 Japanese 2A — 渡辺鉄太先生

### 4.5.1 授業内容

日本語教科書『ようこそ』使用。身体部位の紹介。身体部位を使った慣用句紹介。テキスト練習問題。

### 4.5.2 見学の感想

身体部位の語彙について、かなりの学生はよく知っていた。テキストの練習問題に出てくる文型などに関して、理解に問題のある学生は見られず、学生の既習知識が高いのではないかと感じたが、発話時に不正確さがでる学生も多少いた。慣用表現の紹介などが行なわれたが、それらの表現についてはあまり知らないようだった。学生の能力差もあるようなので、それを活かして学生の中から知っている表現などを聞き出していくこともできるのではないかと感じた。

## 4.6 Colloquial Japanese — 久保田満里子先生

### 4.6.1 授業内容

メルボルン大学オリジナルテキスト使用。ジェスチャーにおける文化差について ((1) の続き)。アメリカ (イギリス) のジェスチャーについて。テキスト本文の読み。(友人の家庭訪問場面) 学習したジェスチャーを組み込んだロールプレイの作成、発表、評価。見学の感想：学習者は、授業で習ったジェスチャーを組み込んだロールプレイを、ペアになって考え、発表していた。この活動自体は非常に面白かったが、どのペアも自然な発話にはいたらなかった。ジェスチャーを無理に入れようとしていたので、話をした後に、はっと気づき、ジェスチャーを入れたり、会話がおろそかになったりしていたように思われる。また、教科書の中には、実際の使用場面で本当に行うのかなというふうなものもあった。ジェスチャーを教えるのは、大変意味のあることだと思うが、個人差、特定の集団のものなど、さまざまなものがあり、選別の難しさを感じた。

## 4.7 Advanced Japanese Grammar — 豊田悦子先生

### 4.7.1 授業内容

3つのグループに分かれてビジターとのフリートーク。(自己紹介・渡日経験について・神戸大との遠隔プロジェクトについて等)

### 4.7.2 見学の感想

今回、ビジターとのフリートークだったので、実際先生がどのような授業を行っているかわからなかったが、学習者は何度も渡日経験があるものが多く、日本語能力も極めて高いと感じた。話題は、主に日本について学習者が聞きたいことや、オーストラリアに関してどう思うかなどであった。

## 4.8 Advanced Japanese A — 大橋純先生

### 4.8.1 授業内容

メルボルン大学オリジナルテキスト使用。コンビニエンスストアが果たす役割について。(記事：ダカーポ図説) テキスト本文読み。時々ボランティアに現在の日本におけるコンビニの役割を聞いて、記事とすり合わせながら説明。また、本文からいくつか文法項目を拾い上げて、佐賀新聞データベースから引用した例文を用いて解説した。

### 4.8.2 見学の感想

日本語の習得を対象とした言語教育というよりもむしろ、時事問題に関するアカデミックな内容に思われた。不必要な語彙などは無視し、「～は」や「～が」など、主題、主語に焦点を当てさせ、どの情報が必要か不必要か見極めるストラテジーの奨励を行っていた。説明はあまり多くなく、ほとんど英語で行い、どんどん次へと進んでいったので、学生がああ難しい文の内容をどの程度理解しているか、確認しながら進める必要があると思った。

## 4.9 Advanced Japanese Grammar — 豊田悦子先生

### 4.9.1 授業内容

3つのグループに分かれてビジターとのフリートーク。(自己紹介・渡日経験について・神戸大との遠隔プロジェクトについて等)

### 4.9.2 見学の感想

4.7同様、ビジターとのフリートークを行った。話す内容も大体同じだったので特に新しい発見、感想などはないが、ここでも学生の日本語能力は高いなと感じた。ただし、同じグループ(クラス)の中でも、多少レベルに差があるなと感じた。学年ごとにクラスを編成しているからだろうか。

## 4.10 Japanese 2A — 野口幸子先生

### 4.10.1 授業内容

コンピュータールームでの授業

11時00分～ メルボルン大学オリジナルのコンテンツ「フラッシュェン」で漢字の読みの練習。  
またネット上で提供されている漢字の書き順の動画像ファイルを利用し、書き順練習。

11時20分～ 日本語のワード入力について説明

11時30分～ プロジェクトワーク「オーストラリアの日本人生活」(3週目/12週)

メルボルン日本語情報サイト「Dengon.net(www.dengon.com.au)」を紹介し、メルボルン在住の日本人はどのような機関や店を利用し、どのような会社で働いているかなどを教師が例を挙げて簡単に説明していった。

11時45分～ 4人ずつのグループに分かれ、どこへ行けば、メルボルン在住の日本人とコンタクトがとれるか、話し合った。

11時50分～ どんな日本人に興味があるか1人ずつ発表した。

12時 授業終了

### 4.10.2 見学の感想

授業は主に英語で行なわれ、日本語の習得という面では、あまり効果がないように思われた。しかし、初級の早い段階から、このようなプロジェクトワークを行なうことによって、日本人・日本文化・日本社会・日本企業などに興味を持ち、日本語学習意欲を長い期間維持させる契機になるのではないかと思った。

## 4.11 キャンパス案内

### 4.11.1 見学の感想

大学を案内してくださったのは、インドネシア人のアルフレッドさんだった。私達の訪問を非常に喜んでくれたらしく、数日前から行く場所を企画してくれていたらしい。見学は、3時間半程度で、大学の各校舎、図書館、ジム、その他たくさんの場所を見せてもらった。懇切丁寧に説明していただいたが、彼は英語しか喋れず、たまに意志の疎通が上手くいかない場合があった点が残念である。図書館には、予想以上に日本語／日本文学／日本文化などに関する資料も予想以上に充実していた。また、副教材なども貸し出し可能であり、日本語を教える際には非常に役立つと思った。

## 4.12 Advanced Japanese Grammar 豊田悦子先生

### 4.12.1 授業内容

2つのグループに分かれてビジターとのフリートーク。

#### 4.12.2 見学の感想

全体的におとなしめで、こちらから話題を振らないと、会話が続かない。しかし、クラスがまだ3週目で、学生同士まだ慣れていないことや、7~8人の人数では、積極的に話すのも難しいのであろう。過去に日本に留学した経験や旅行した経験を持つ学生が多く、また将来日本で働きたいという学生がいたのが印象的だった。

### 4.13 Japanese 1A 関口幸代先生

#### 4.13.1 授業内容

一人一台、ノートPCを提供しての授業

11:00~ 日本語ワードで、ひらがな、カタカナ、漢字の入力練習。教科書『ようこそ』の例文を入力。

11:30~ 文型練習『 ~は~です。/所有の助詞「の」 』教室前方の大型スクリーンに文型を写し出し、英語による補足と、簡単な練習。

11:40~ 4~5人のグループに分かれて、グループワーク。グループごとにテーマを決め、情報を集め、最終的にはプレゼンテーションを行う。本日はグループごとのテーマ決めを行った。テーマは「日本料理」「コミック」「芸者」「音楽」などがあつた。

12:00 授業終了

#### 4.13.2 見学の感想

初級スタートの学生が主であるため、授業は英語で進められた。関口先生のメリハリのある進め方で、学生たちも積極的にタスクに取り組んでいるように見えた。ワード入力では、予想以上に、日本語の入力になれている学生が多く、促音、拗音なども苦にせず入力していた。グループワークでは全員が積極的に、また楽しそうに発言しており、日本事情に対する興味の高さが伺えた。

### 4.14 Reading Contemporary Japanese Texts — 豊田悦子先生

#### 4.14.1 授業内容

本日の読解教材が、小泉八雲の「むじな」であったため、授業の前半では、怪談について「友達と怪談話をするか」「いつするか」などを話し合った。またゲスト（吉田・大塚）が知っている怪談話を披露した。

後半は、「むじな」の読解を行った。冒頭から段落ごとに進み、わからないところを確認した。授業ごとに学生の中で担当が決められており、担当者が下調べをしておいて、他の学生からの質問に答えるという形をとっていた。

また、ある程度進んだところで、一人が内容に関するクイズを出し、それに答えることによって、全員が内容を把握しているか確認した。



#### 4.14.2 見学の感想

単に字面だけを理解するのではなく、著者が表現を工夫することによって表されている「怖さ」や、時代背景が影響を与える「怖さ」などにまで話が及び、深く読みこんでいるのが印象的だった。少人数で和やかな雰囲気があり、学生それぞれもレベルが高かったので、充実した内容だった。

### 4.15 豊田悦子先生のお手伝い

#### 4.15.1 内容

主に初級の文型について、ホームページ上で実際にどのように使われているのか、検索し、その文型が使用されているサイトのアドレスのリストを作成した。教科書等で習った文型が実際にどのように使われているのか、学生たちに見せるためのものである。